

# 関西医科大学総合医療センター

(平成28年9月16日訪問) 平均在院日数76日(平成28年9月16日時点)

# 積極的な取組など

● 精神科リエゾン加算(平成25年の診療報酬改定によりできた加算)を 取ってリエゾン精神医療が行われていた。精神疾患と身体的な治療が必要な患者が入院する際は、「リエゾン外来」を受診し、精神科医が精神科以外の病棟で対応できるかどうか判断する。患者が精神科以外の病棟に入院した場合は、リエゾンチーム(精神科医・認定を受けた精神科リエゾン看護師・PSW)が患者の入院している病棟に積極的に出向き精神科に関するサポートをするとのことだった。

# 前回の訪問(平成 25 年 6 月) から 改善されていたこと等

● 前回訪問時、カリブ海エリアではベッド周りのカーテンが頭の部分の横に付いているだけで、ベッド全体を囲うことができなかったが、平成28

年 7 月から 9 月に行われた改修工事により、ベッドを全て囲うことのできるカーテンになっていた。

- 前回訪問時、エーゲ海エリアには「日中はベッド周りのカーテンを開けておくように」との掲示があったが、今回はそのような掲示はなく、多くの患者はカーテンを閉めていた。
- 前回訪問時、患者のいないベッドに拘束帯が付いたままになっていた。 今回も、患者がいないのに拘束帯が付いたままになっているベッドが 1 床あった。看護師によると、ベッドを使用している患者がすぐにベッドに 戻って寝ると言っていたため、装着して待機していたとの説明だった。
- 前回訪問時、公衆電話の設置場所が、詰所に近く囲いがなかったことについては、「物理的に早急に囲いを作るのは難しく、エーゲ海の患者は、殆ど外出可能な患者なので、外でも電話できる」との回答で、今回も変わっていなかった。
- 前回訪問時、テレホンカードは、家族が購入して持参することを促す掲示があったことについては、今回はそのような掲示はなかった。

# 病院全体について

平成 28 年 5 月に本館が建て直されて開院するのに伴い、関西医科大学附属滝井病院から関西医科大学総合医療センターに名称変更されていた。精神神経科病棟は本館ではないので、これまでと同じ建物だった。病棟内は、手前にエーゲ海と呼ばれる個別開放エリア(14 床)、施錠された扉の奥のカリブ海と呼ばれる完全閉鎖エリア(25 床)に分かれていた。訪問時はエーゲ海に 11 名、カリブ海に 20 名が入院していた。男女の比率は女性が多かった。

この病棟への入院は、精神疾患の治療と精神疾患のある患者の身体合併症の治療や手術のために精神科病院や自宅から入院する場合がある。 リハビリが必要な患者が3ヶ月以上入院することもあるが、殆どの患者は3ヶ月以内で退院する。精神科病院から入院した患者は身体的な治療が終わり次第、元の病院に戻る。自宅から入院の場合は自宅に退院することもあるが、他の精神科病院に転院することもある。

病院全体としては、精神科リエゾン加算(平成25年の診療報酬改定に

よりできた加算)を取ってリエゾン精神医療が行われていた。精神疾患と身体的な治療が必要な患者が入院する際は、「リエゾン外来」を受診し、精神科医が精神科以外の病棟で対応できるかどうか判断する。患者が精神科以外の病棟に入院した場合は、リエゾンチーム(精神科医、認定を受けた精神科リエゾン看護師、PSW)が患者の入院している病棟に積極的に出向いて、精神科に関するサポートをするとのことだった。

# 人権委員会・意見箱

- 意見箱は公衆電話のそばに設置されていたが、用紙やペンは設置されていなかった。

# 面会

面会時間は平日 15:00-20:00、日祝日 11:00-20:00。病棟内での面会は家族のみ。近所の方や職場の同僚などが面会に来てしまうため、予め制限しているとのことだった。外出できる患者については、家族以外と病棟外で面会することがあるとのこと。



エーゲ海エリアでは病棟に入ってすぐのところに 1 台、カリブ海エリアは 詰所の横に 1 台あり、それぞれ囲いはなかった。携帯電話は病棟に持ち 込むことができない。携帯電話やスマートフォンに撮影機能がついている こと、SNS やメールを見ることができる環境であると療養に専念できない 患者がいるためとの説明だった。

# 金銭管理

全員が自己管理。ベッドサイドの鍵付き床頭台は無料で使用できる。

# 診察・薬

主治医・指導医・研修医がグループになって患者を担当していた。診察は、診察室(2室)でしている。薬は自己管理の患者が7名、それ以外の患者は病室で受け取る。

#### **PSW**

病棟担当1名、救命2名、デイケア担当1名。外来と医局にデスクがある。 医療保護入院者退院支援委員会の退院後生活環境相談員は PSW が担う。 医療保護入院者退院支援委員会が開かれる対象となる患者は 1 割ほど。 委員会への参加は、患者は3分の1程度、家族は1~2割。委員会と は別に開催される退院前カンファレンスには主治医、PSW、看護師、指定医、 希望する家族、地域のサポートする方など多職種が参加する。

# 掲示物等の情報提供

エーゲ海エリアの掲示物はとても充実しており、入院時に知りたい内容も分かりやすくファイルにまとめられたものがあった。

#### 隔離室

話所奥に 1 室あった。ナースコールはなかった。隔離室内に酸素吸入等の設備があるため、手術後の経過観察中の患者が入室することが多いとのことだった。トイレ横には目隠しの壁があった。

# 病棟について

# <sup>´</sup>カリブ海エリア 閉鎖 男女・精神一般 13:1 25 床)

訪問時は入浴時間で、職員に呼ばれて浴室に向かう患者が数名いた。 病室では横になっている患者が数名いたが、カーテンは殆ど使用してい なかった。看護師にカーテンの使用について何か注意点などがあるか尋 ねたところ、日中は医療的処置やおむつ交換以外は、原則カーテンを開 けて過ごすことになっているとのことだった。カーテンを引くと部屋が暗く なること、カーテンがあることで同室の患者同士のコミュニケーションが 図りにくいこと、患者が日光を浴びることで昼夜逆転を防止するとの理由 だった。

廊下とデイルームにテレビがあった。デイルームでの食事は、2 つのグループに分けて食べるとのことだった。デイルームに冷蔵庫も設置されており、患者の飲料はペットボトルに名前を書けば保管できるようになっていた。廊下にはお茶の入ったウォーターキーパーが置かれており、患者がコップを持っていき飲んでいた。

# 患者の声

「入院して 1ヶ月ぐらい。OT には参加していない。何もすることがないから暇」「退院の目処などは聞いていない」「もう少ししたら、デイルーム

でストレッチする」「風呂の順番を待っている。腰が痛く、コルセットをしている」「アルコール依存症。自宅で飲酒して、ぼやを出して火傷を負った。 入院して 1ヶ月、かなり回復してきたがまだ退院の話は出ていない。火が出て消火器を使用したので、家がむちゃくちゃ。どうなっているか気になるが、まだ帰れない」

# エーゲ海エリア 閉鎖 男女・精神一般 13:1 14 床

患者は、それぞれがベッドや廊下のベンチなどで過ごしていた。廊下のベンチで医師や看護師と話している患者もいた。

# 患者の声

「4ヶ月入院している。ここ(エーゲ海エリア)に移って2週間」「看護師が忙しくあまり話を聞いてくれない」「言い方がきつい看護師がいる。話を聞いてほしい」「薬を配るのを早くしてほしい。不安になる」「しんどい時は食事の配膳の返却など、柔軟に対応してほしい」「近所まで散歩に行く。夕方4時まで0K。院内の外出時間をもう少し延ばしてほしい」「現金で買物する。前は売店で100円玉に両替してくれていたが、今はしてくれない」「お金は自分で管理している」「奥さんが治療計画を貰っているかもしれない」「治療計画書は貰っている。詳しい説明も受けた」「カリブ海(エリア)にいたときは、患者の声や声が聞き取りにくい患者と話す職員の声などでにぎやかだった。こちらは静かで落ちつく」

# 検討していただきたい事項

# 意見箱の活用

投書内容やその回答についての掲示はなく、個別対応をしているとのことだったが、他患者が同じような思いをしていることがあり得る。意見箱の更なる活用に向けて、意見箱への投書内容と回答は、病棟内に掲示する(過去の分についてはファイルなどにして置いておく)ことを検討していただきたい。(病院:病棟スタッフで検討し患者の状態に合わせて掲示します。)

# カリブ海エリアの情報提供や掲示について

カリブ海エリアの掲示は食事のメニューのみで、その他の掲示物は少なく、病棟全体に殺風景な印象を受けた。(病院:レクリエーションなど作品は掲示しています。ファイル等面会室で自由に見ることができます)

#### 精神保健福祉資料より(平成 27.6.30 時点)

24 名の入院者のうち統合失調症群が 8 名 (33%)、気分障害 7 名 (29%)、認知症等症状性を含む器質性精神障害が 5 名 (20%)。入院形態は任意入院 6 名 (25%)、医療保護入院 18 名 (75%)。在院期間は 1 年未満が 24 名 (100%)。

権利擁護

ほどは 大阪府内の精神科病床のある 全病院への訪問活動の報告です。

#### この本の使い方はいろいろ

「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」 「病院訪問活動の視点を知りたい」

「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」

「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」





A4 サイズ /210 ページ 2,000 円

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- 各病院の訪問報告
- 各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- 入院中の精神障害者の権利に関する宣言



クリック



人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

# 入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」とな ります。活動を維持し、充実させるためには、皆様か らの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、 訪問活動(療養環境サポーター制度)でも大阪府等から委 託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のために は、交通費(1回2,000円~4,000円/2名分)や複数の事 務局スタッフの人件費(年間約 500 万円)が必要となります。

# 寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。



賛助会員

障害者 1,000 円

3,000 円

5,000円

特別協力会員

10,000 円 30,000 円

50,000円

#### 会員特典

#### 人権センターニュースの送付

2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだから こそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院 掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をしることができます。 当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保 健福祉にかかわる皆様にも必見です。

#### メルマ力"配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわ る最新ニュースや私たちの講演会・ セミナー情報等をいち早くお知らせ します。

面会活動だけでなく、講演会の企画・ 運営や広報誌・SNS による情報発信 のサポート等いろいろな形で参加で きます

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をして しただした場合、 確定申告によって 『税額控除』を受ける ことができます.

(税額控除とは?

寄付金 1万円の時

所得税額 - 3,200 円

\*大阪府(堺市を除く。)に在住 の方は、地方税分も控除されます。

・控除には限度額があり、実際の 税額はケースにより異なります。

所得税額-19,200円

寄付金 5 万円の時

10,000 円のご寄付で、2~3名の面会が可能になります

00960-3-27152 郵便払込 NPO 大阪精神医療人権センタ

銀行振込 三井住友銀行 南森町支店 普通1485805

現金 講演会会場・事務所にて

クレシットカード ウェブサイトのみ



回引対回 こちらより申込書をダウンロードできます | 検索 | 大阪精神医療人権センター

クリック



# 認定 NPO 法人大阪精神医療人権センタ・

お問い合せ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F Tel 06-6313-0056 Fax 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp